

TPP 特別委員会理事（当時）
福井 照 衆議院議員



「委員会でも西川（公也）先生の思いを
強行採決という形で実現
するよう頑張らせていただく」

（平成 28 年 9 月 29 日 二階派会合にて）
出典：2016 年 9 月 30 日 朝日新聞

公明党
井上義久 幹事長



「10 月中の衆院通過がひとつの
目安になる」

（平成 28 年 10 月 14 日 記者会見にて）
出典：2016 年 10 月 14 日 日本経済新聞

安倍晋三 総理大臣



「我が党において、今まで結党
以来、強行採決をしようと
考えたことはない」

（平成 28 年 10 月 17 日 衆院 TPP 特別委の答弁にて）
出典：衆院 TPP 特別委員会速記録より抜粋

山本有二 農水大臣



「強行採決するかどうかは、
この佐藤勉（衆院議運委員長）
さんが決めるんだと。だから私は、
はせ参じたわけだ。」

（平成 28 年 10 月 18 日夜 佐藤勉氏パーティーにて）
出典：2016 年 10 月 20 日 毎日新聞

山本農林水産大臣の発言（TPP 特別委員会）

「米穀業界取扱量上位五者のうち SBS 米の取扱実績がある四者を対象にいたしまして、公表を前提としてヒアリングを実施したところ、販売価格まで聞き取ることができましたのがわずか二者、この事例のみ」

平成 28 年 10 月 17 日 民進党 今井雅人 質問答弁



「実質的に米の価格を下げるために使ったというところは一例もありませんでした」

平成 28 年 10 月 17 日 民進党 今井雅人 質問答弁

日本農業新聞

SBS米扱う理由

商社「安いから」

相場は国産の2割安

輸入米の売買同時入札(SBS)取引を巡って日本農業新聞は、商社に聞き取り調査を行い、回答を得た。主社が輸入米を扱う理由に「国産米より安いから」を挙げた。取引する米の相場は「国産米より2割安」が最も多かった。SBS米の「調整金」を使った価格偽装問題に対し、今月7日に農水省が公表した調査結果は、実需者への販売価格に十分踏み込まないまま、「国産相場への影響はない」と結論付けた。「安さありき」で取引される実態と、同省見解との間には大きなずれがある。国会での徹底審議が求められる。

▼3面に関連記事

国の見解と食い違い

調査は、今月13、21日にSBS参加資格を持つ全24の商社を対象に聞き取り、11商社(設問への回答も含む)の回答をまとめた。

輸入米を扱う理由

「輸入米を扱う理由」には、11商社全てが「国産米より安いから」と答えた。長い輸送時間で劣

本紙 聞き取り調査

化しやすく、炊飯時に割れやすいなど品質面で見劣りする点も織り込んだ回答だ。タイ産の香り米などでは料理適性が調達基準になるが、まれなケースだった。

米卸を通じた輸入米の売り先は、外食・中食といった業務筋が中心。企業や福祉施設向けの給食事業者もあった。安さを優先し、原産地表示が目立たない場面で採用されていた。単一銘柄での使

用は少なく国産米とのブレンドが中心だった。実際に取引する輸入米の相場観は、国産米より「2割安」が4社と最も多く、「1割安」が2社と続いた。米国産やオーストラリア産より一段安い中国産を想定し、「4割安」とする回答もあった。

近年、同省が公表するSBSの売り渡し価格は、国内業務市場で競合する国産B銘柄と接近するケースが目立つ。だが、同価格ではSBS米の魅力はなく、「公表される価格と実際の取引価格」は、明らかに乖離(かいり)している(大手商社)との受け止めが業者に広がっていた。

調整金について商社は「農水省が定める売り渡し価格の最低ラインをクリアし、実需が求める安い水準で販売するための手法(中堅)と受け止める。そうした使途を打つ消すために同省が挙げる「米卸が商社に支払う逆調整金」もある」という事例は、「取扱量が少ない銘柄を試験輸入する場合など限定的(大手商社)とみる。

SBS売渡価格に米卸の手数料などを加算した実需への販売価格は、複数社が「1kg当たり200円がボーダーライン」とみている。その水準を下回ると、実需の調達意欲が高まる傾向にあるという。14、15年度のSBS入札の不調は、国産米が大幅に値下がり、B銘柄を輸入米並みの価格で調達できたことが影響していたとみられる。

SBS米の価格偽装問題を巡る見解

	農水省	本紙の商社聞き取り
相場観	「国産と価格差があっても多少」「食糧法に違反していないため、業者への任意調査では把握できない」	「安さ以外にない」「実際の価格は公表価格と乖離がある」「国産より米国・オーストラリア産は2割、中国産は4割安い」「外食は1kg200円以下の米を求める」
調整金をやりとりする理由	「入札後に調達費用が変化した場合の対応」「実質的に安く売るために使った例はゼロ」	「公表価格で買う実需はない」「売り渡し価格の最低ラインをクリアするため調整金を上乗せせざるを得なかった」

日本農業新聞

SBS米で商社証言

仕入れ値「卸と調整」

農水省は調査で「国産米の価格に影響を与えていることを示す事実は確認できなかった」と結論付ける。商社への調査を踏み込まなかった理由は、実需に売り渡すのは卸で、商社ではないためとした。しかし、本紙の調査に商社は「米卸と調整し、実需に確実に売れる価格を意識して仕入れている」と証言。SBS米の仕組み上、卸と綿密に情報共有していることを明らかにする。

商社は、国産米との価格差を、1〜4割安いと回答。「2割安」「1キ換算で20〜40円安に相当」が4社と最多で、「1割安(20円安以内)」と続く。「4割安(60〜80円安)」の回答は、中国産を念頭に置いていた。調整金の存在にも言及し、「公表価格で落札するには調整金は不可欠(大手)」との本音も漏れた。

TPP合意では、現在ある最大10万トのSBS米に7万8400トの別枠を上乗せする。主食用米の輸入量が増えれば、国内価格に影響する懸念も一層高まる。政府・与党には、SBS米の取引実態や生産現場への十分な説明が求められている。

商社のSBS米を扱う理由と相場

商社	輸入米を扱う理由	相場 (国産米との価格差)	その他
A	単に安いから	全体では2、3割安。米国・オーストラリア産は2割安、中国産は4割安	米卸を通じた販売先は中小飲食向けが多い。調整金があるので落札できる
B	安さ	-	農水省の公表価格と実際取引価格は明らかに乖離(かいり)
C	価格(安さ)以外にメリットはない	2割安いと調達意欲が出てくる。国産米との価格差は1kg20〜30円	外食などから輸入米へのニーズがある。安さを求める実需が扱い続けている
D	基本は安いから	1kg20円以上安いことが必要	外食は1kg200円前後の米を求める。単一で使うことはなく、国産米とブレンドする
E	安いから	-	実需へ確実に売れる価格になることを意識し、輸入米を仕入れている
F	安さありき	-	-
G	安いから	2割ほど安い	売り先は外食店がメイン。実需への渡し価格は1kg200円がボーダーラインで、下回ると調達意欲が高まる
H	価格差(安さ)が魅力	-	-
I	安いから	国産米より1、2割安いが、分岐点	調整金を支払わないと取引できないのが本音だ。国産米が値下がりがすると、輸入米を扱うまみがなくなる。外食などの価格決定力が強い
J	安さ	-	-
K	安さ以外の魅力はない	国産より1kg10〜20円安い	SBS米は食品メーカー向けに販売。国産米の裾物が少ない

※-は無回答(本紙がSBS参加資格を持つ商社へ聞き取りして作成)

調整金で輸入米値引き

卸業10社証言 農水省に反論

国の管理下で行われる外国産米の「売買同参入札」(SBS)に、卸業10社が、商社から受け取った「調整金」の用途について「輸入米の値引きに使った」と毎日新聞の取材に証言した。

農林水産省は今年、調整金を値引いて輸入米を売っていた業者は1社もなかったとの調査結果を発表していた。

輸入米の調整金問題
国が商社から外国産米を買い取り、価格を上乗せして卸業者に販売した後、商社から卸業者に「調整金」と呼ばれる金銭が支払われていた問題。国から卸業者への売却価格が高すぎるた

め、調整金を使って値引きされ、輸入米が国の公表価格より安く流入していると指摘されている。農水省は今年、「調整金が国産米の価格に影響を与えた事実を確認できなかった」とする調査結果を発表した。

が、卸業者の証言との食い違いが明確になった。農水省は、2011年度以降にSBSで落札実績がある商社26社と卸業者113社に聞き取りを実施した。この113卸業者のうち29社が取材に応じた。取材に対し、調整金をやりとりしたことがあるとした卸業者は12

社で、うち10社は国が公表している「正規価格」より安く輸入米を売ったと認めた。農水省は「調整金は業者の感覚としては収入。プールして他のコメも含めさまざまな経費に活用した」との回答が多かった」としたが、同様の説明をしたのは1社だけだった。

中部地方の卸業者は「農水省は業者が抜ききしているかのような言い方をしているが、正規価格から調整金全額を引いた額が輸入米の仕入れ値と考えている」と反論。東北地方

の卸業者も「落札希望価格は入札前に商社に伝えている。商社が高値に見せかけて落札した後、調整金を使って当初の希望価格に戻す。会計上は収入として処理しているが、実際は収入ではない」と同省の説明を否定した。

では、11年度以降の約1800件のSBS取引のうち2件についてしか輸入米の価格を追跡していなかったことから「不十分」との批判がある。同省は「任意調査の限界」としているが、関西地方の卸業者は「隠す必要はないので本当の安い値段を答え

るつもりでいたのに全く聞いてこなかった」と証言した。29社のうち17社は「調整金をもらったことがない」と回答したが、うち12社は入札資格のない業者に代わって形だけ入札に参加し、調整金を受け取らずにコメを転売する「名義貸し」業者だった。【山本将克 大場弘行】



4. 調査結果を踏まえた契約内容の改善

- (1) 調査の結果、民間事業者間の金銭のやり取りは、ある程度あったものの、それによってSBS米の国内市場における価格水準が、国産米の需給及び価格に影響を与えていることを示す事実は確認できなかった。
- (2) しかしながら、今回の調査で、民間事業者間の金銭のやりとりがある程度あることが確認されたため、SBS入札をより適正に行い、農業関係者等のSBS入札に関する不信感を生じないようにする等の観点から、以下のとおり、契約内容の改善を行う方針。
- ① SBS契約書の契約項目として、個々のSBS取引に係る3者契約に関連して、輸入業者及び買受業者との間で金銭のやりとりを行ってはならないことを明記。
 - ② 違反した場合は、資格の停止又は取消し等。